PART2　き・けり

き・けり

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	き							特殊型
形	**けり**		○				○	型

※「き」の接続＝　　形。ただし、「き」の連体形「　　」と已然形「　　」は、**カ変・サ変**の**未然形**にも接続する。

	未然形	連用形
カ変動詞	**こ** し　しか	き し　しか
サ変動詞	**せ** し　しか	（し―き）

【意味】

●「き」　①「　　」**過去**（～た）→「　　」の経験

●「けり」　①「　　」**過去**（～た・～たそうだ）→「　　」の経験

②**詠嘆**（～よ・～なあ）

★「き」と「けり」の使い分け例

後徳大寺(ごとくだいじ)の大臣(おとど)の、寝殿に鳶(とび)ゐさせじとて縄を張られたり**ける**を、西行が見て、「～」とて、その後(のち)は参らざり**ける**と聞きはべるに、綾小路(あやのこうぢ)の宮のおはします小坂殿(こさかどの)の棟に、いつぞや縄を引かれたり**しかば**、かの例(ためし)思ひ出(い)でられはべり**し**に、まことや、「～」と人の語り**し**こそ、「～」とおぼえ**しか**。

★詠嘆の「けり」

１　「　中」の「けり」

（例）見わたせば花も紅葉もなかり**けり**浦の苫屋（とまや）の秋の夕暮

２　「**けり**」の「**けり**」

（例）（騙されていたことに気づき）「朕（われ）をば謀（はか）るなり**けり**。」

３　「べかり**けり**」の「**けり**」

（例）（星も出ていない暗い夜に）「（月の明るい夜はかえって良くなく）まばゆかりぬべかり**けり**。」

４　**会話文**中の「けり」（→文脈判断。**まず詠嘆**で訳す。おかしければ過去。）

（例）（叔母の家に行ったところ、叔母からの言葉）「いとうつくしう、生ひなりに**けり**。」

問一　「合はせ［ａ］ども、…」の［ａ］に助動詞「き」を正しく活用させて入れよ。

問二　「いみじうおそろしうこそ侍り［　　］。」の空欄に、助動詞「き」を適切な活用形にして入れよ。

問三　「みづから浮世坊とぞ付きに［Ａ］。」の空欄Ａに該当する過去の助動詞の活用形をひらがな二文字で記しなさい。

問四　次の傍線部の中から「過去」の意味のものを一つ選べ。

ア　畢（は）てに<u>けれ</u>ば　　イ　聞こしめして<u>けれ</u>ば　　ウ　来<u>ざら</u>む所にて

エ　孫を見<u>む</u>と　　オ　まかり返り<u>ね</u>

問五　（薄情な人にむかって）「いみじうつらき御心なり<u>けり</u>」の傍線部「けり」の助動詞の意味は何か答えよ。

問六　傍線部の文中での意味および活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

事の子細を尋ねければ、「さることはべりき。…」

ア　過去・未然形　　イ　過去・已然形　　ウ　詠嘆・未然形　　エ　詠嘆・已然形

問七　傍線部の文法的な説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

秋やくるつゆやまがふと思ふまであるは涙のふるにぞありける

ア　過去の助動詞の連用形　　イ　詠嘆の助動詞の終止形

ウ　詠嘆の助動詞の連体形　　エ　過去の助動詞の已然形

〈Memo〉

第8講　PART2　確認問題

① 「あはれに同じやうなるもののさまかなと見侍り<u>し</u>に、…」の傍線部の活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

② 次の各傍線部の中から、過去の助動詞を一つ選べ。

「いかで都へと便り求め<u>し</u>(ア)もことわりなり。中にもこの関は三関（さんくわん）の一（いつ）に<u>し</u>(イ)て、風騒（ふうさう）の人心（ひと）をとどむ。秋風を耳に残<u>し</u>(ウ)、紅葉（もみぢ）を俤（おもかげ）に<u>し</u>(エ)て、青葉の梢（こずゑ）なほあはれなり。」

ア　求め<u>し</u>　　イ　三関の一に<u>し</u>て　　ウ　耳に残<u>し</u>　　エ　俤に<u>し</u>て

③ 「仰せ合せ<u>し</u>かば、人の亡び失せし事、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　過去

④「（虎が）鰐に食ひ切られたるなりけりと見る程に、…」の傍線部「けり」と同じ意味・用法の「けり」が使われている文を、次の中から選べ。

ア　身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国もとめにとて行きけり。

イ　八重葎しげれる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり

ウ　野山にまじりて竹を取りつつよろづの事に使ひけり。

エ　いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

⑤「主は二十五、六ばかりのをのこにてこそはいませしか。」の傍線部「しか」と同じ活用形のものを、次の中から選べ。

ア「夏山となむ申す」と申ししを、…

イ「姓（しやう）はなにとかいふ」と問ひ侍りければ、…

ウ　しかのごとくに、入道殿の御栄えを申さむと思ふほどに、…

エ　文徳天皇と申す帝（みかど）おはしましき。

第8講　PART2　解答

問一　しか
問二　しか
問三　ける
問四　ア
問五　詠嘆
問六　イ
問七　ウ

第8講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 過去の助動詞「き」は連用形に接続する。

② 過去の助動詞「き」は連用形に接続するので、下二段活用「求む」の連用形に接続しているアが正しい。

③ 上が連用形で、「しか」と活用するのは、過去の助動詞「き」（已然形）。よって、オが正解。

④ 「けり」には過去に加え詠嘆の意味がある。意味が詠嘆となるのは、設問にあるような「なり＋けり」のとき、和歌や会話文中にあるときである。イが和歌であることから、正解とわかる。

⑤ 設問は係助詞「こそ」を受けているので、已然形。イの「ば」に連なる「けれ」が已然形である。ウは副詞。

〔解答〕

① イ　② ア　③ オ　④ イ　⑤ イ